

## 【第4号】

# 恵那南地区統合中学校 準備委員会だより

発行：令和5年8月8日（火）  
発行者：恵那市教育委員会  
学校統合準備室 26-2111

[https://www.city.ena.lg.jp/soshikiichiran/kyoikuiinkai/kyoikusomuka/4\\_1/11423.html](https://www.city.ena.lg.jp/soshikiichiran/kyoikuiinkai/kyoikusomuka/4_1/11423.html)

## ★第2回 恵那南地区統合中学校準備委員会 理事会が開催されました。

日時 令和5年8月3日(木) 午後7時から  
場所 岩村コミュニティセンター 大会議室 理事17名

※委員会には、事務局から下記の「めざす恵那南地区統合中学校の姿(統合中学校のコンセプト)」について提案し、委員の皆様からご意見をいただきました。今後これを軸に、具体的な内容を肉付けしてまいります。

## 【議題】 めざす恵那南地区統合中学校の姿 (統合中学校のコンセプト)

### 未来をつくる 人とつながる 地域とあゆむ

#### 未来をつくる

#### 夢をもち、努力 する生徒

- ・物事を前向きに受け止め、目標に向かい粘り強くやり抜く生徒
- ・確かな学力、豊かな心、健やかな体が将来の礎になることを自覚し、ひたむきに努力する生徒

#### 人とつながる

#### 人とのかかわり の中で育つ生徒

- ・自他ともに認めあう生徒
- ・人とのかかわりの中で、自分や集団を高める生徒

#### 地域とあゆむ

#### 地域を知り、地域 を愛する生徒

- ・地域の歴史や文化を学び、地域の魅力を知る生徒
- ・地域の一員として、考え行動する生徒

- ・深い学びと学ぶ楽しさのある授業
- ・課題解決力を育てる授業
- ・自らの生き方を考えるキャリア教育
- ・豊かな心、健やかな体を育てる教育

- ・対話と協働のある学習活動
- ・互いの成長を願い、高め合う仲間づくり
- ・ICTを活用した遠隔教育活動
- ・一人一人に寄り添う教育相談

- ・地域との連携によるふるさと学習
- ・人・ものと直接触れ合う体験学習
- ・多様な他者と協働した探究的な学習

#### 【環境整備】

- ・SDGsを意識した過ごしやすい校舎
- ・豊かな学びを支えるICT環境の整備
- ・多目的ワークスペースの整備
- ・地域の歴史文化が位置づく校舎

※この「めざす恵那南地区統合中学校(統合中学校コンセプト)」には補足説明があります。

# ◎統合中学校コンセプト補足資料

## ◆「未来をつくる」

予測困難な未来を切り開いていけるよう、夢をもち、努力する生徒を育てていきます。

### 「物事を前向きに受け止め、目標に向かい粘り強くやり抜く生徒」

予測困難な社会の中で、様々な変化を前向きに受け止め、自ら目標を設定し、夢をもって、主体的に生きていく力を育むことが求められています。より多くの仲間と学ぶ中で、多様な考えに触れ、よりよい生き方を求め、努力する生徒を育てていきます。

### 「確かな学力、豊かな心、健やかな体が将来の礎になることを自覚し、ひたむきに努力する生徒」

学校教育では、確かな学力（基礎的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等と主体的に学習に取り組む態度）、豊かな心、健やかな体の3つを育むことが求められています。より多くの仲間の中で、多様な考えに触れて、考えを広めたり深めたりすることを通して、学ぶことの意味を理解し、ひたむきに努力する生徒を育てていきます。

## ◆「人とつながる」

多くの人との出会いの中で、自他ともに認め合い、高め合える生徒を育てていきます。

### 「自他ともに認め合う生徒」

統合中学校は、人数が増え規模が大きくなり、多くの同級生や多くの先輩、後輩のいる学校になります。より多くの人と出会い、互いの良さや多様性に気づく教育活動を進めていきます。その際、教師も、生徒のよさや可能性を発揮できるように、生徒一人一人に寄り添い、認め、励ましていくことが必要です。自他ともに認め合い、一人一人をかけがえのない存在として大切にできる生徒を育てていきます。

### 「人とのかわりの中で、自分や集団を高められる生徒」

体育大会や合唱祭等の行事をより多くの仲間と創り上げることは、成長するための重要な体験の場です。また、ICTを活用して、他の地域や他の国に住む人々から学ぶことも、視野を広げ、自分や集団を高めるチャンスになります。こうした体験を通して、色々な人と折り合いをつけ、協力し合うことで社会性を磨き、自己有用感をもつ生徒を育てていきます。

## ◆「地域とあゆむ」

地域の魅力や課題を知り、地域の中で学び、考え行動できる生徒を育てていきます。

### 「地域の歴史や文化を学び、地域の魅力を知る生徒」

校区が広がったことで、それぞれの地域の良さを生かしながら、各地域の歴史や文化を学んだり、多様な文化や芸能を直接体験したりすることが可能になります。地域の方々とともに活動する機会を通して、地域の魅力や課題を理解し、地域について深く考えられる生徒を育てていきます。

### 地域の一員として、考え行動する生徒

地域を知り、地域の中で活動することを通して、子どもたちは地域に愛着をもち、自分たちが地域を支える一員であることを意識できるようになります。探究的な学習の中で、地域の特色や課題を実感し、考えを発信したり、地域のために活動したりすることのできる生徒を育てていきます。



## ★コンセプトについて理事会での主なご意見★

- ・前回、「もっと具体的な恵南地区の課題に沿ったコンセプトにしてほしい」という意見だったと思うが、どのように反映されたのかちょっとわかりにくい。
- ・コンセプトは、部会の中でいろんな議論になった時に軸足になるもの。すでに部会がスタートしているこの段階で、コンセプトについて議論をすることに意味があるのか。
- ・不登校に関する数字を前回把握していないとのことだったが、そのことに関する回答も今回触れられていない。親は不登校であるとか、いじめのことも心配している。友達が増えることはメリットだと思うし、その部分に期待もしている。しかしその反面、親が心配していることに関し、ワークスペースを利用するとかどのように対策していくということなどをコンセプトを考える上で考えてほしい。
- ・2校とか3校案のある中で、5校を1校にするという極めてリスクの高く、また負担が大きいことをやろうとしている。2校案の方々に5校だからこそできることが多いんですよということをきちんと出してほしい。
- ・普段は見えない地面の中の根っこをどう考えているか。一本の太い幹、細い枝があって、その先に葉っぱが茂る。統合準備委員会でやることはその葉っぱをいかに豊かに茂らせるかということ。根っこをどう考えるか、幹をどう考えるか、太い枝をどう考えるかということが教育委員会には何も無いのではないか。
- ・保護者との対話が少ないと思う。ともにやっていきたいという思いのある保護者もたくさんいる。ぜひたくさん保護者と対話し、現場の学生たちがどう思っているのかをぜひ反映してほしい。
- ・統合すると子どもたちの出番が少なくなる。5校であれば5人に発表する場が与えられるが、統合するとそれが一人になる。例えば学校の備品についても、学校の一般的な基準でやるとそういった教材に触れる機会が減ってしまう。だから、新しい学校では備品の基準を倍にするとか。そうすることで、統合してよかったと子どもたちも感じるのではないか。そういう風に小さな学校の良さも新しい学校に持ってきてほしい。
- ・修正されたこのコンセプトを見て、中学校の全体像、子どもさんたちがどのように授業を受けていくのか想像できるコンセプトだなと感じた。

※詳しくは、今後公開される会議要旨をご覧ください。



(事務局から)

・新しい中学校のイメージがわからないとの意見もあったことから、事務局では、保護者、生徒に恵南地区統合中学校についてアンケートを取り、また、専門部会からの意見も反映させながら、コンセプトに沿った具体的な事項(通学について、校舎について等)について、教育委員会としての学校の姿を提示していきます。

## (報告)…事務局より説明

新聞報道による経緯について、事務局から報告がありました。

### (内容)

去る6月21日付けの新聞一面に掲載された「市職員が賛意発言工作」した記事についての件で、この記事が掲載された当日から、市長部局総務課の方で調査を実施し、今回、発表された調査結果について報告いたします。

調査対象者は、関係する市職員と、中日新聞記事に掲載された発言内容と市説明会議事録から発言者を特定し、実際に中日新聞社から取材を受けた市民3人から聞き取りを行いました。

聞き取り結果として、市職員への聞き取りでは、賛意発言を促した事実はありませんでした。また、中日新聞社から取材を受けた市民3人への聞き取りでは、いずれも「市職員から賛意の発言を依頼」されていないこと、発言は自分の意思で発言をしたことを確認しました。

市長からは「前回発表してから、市職員や発言した市民の方から話を伺い事実関係の調査をした結果、組織的に賛意発言を依頼した発言工作はありませんでした。今後も、事業を進めるにあっては、今まで以上に丁寧な説明を心掛け、疑いを持たれることのないように進めてまいります。」

との、コメントを出されましたので、ここで報告いたします。

## (その他)…事務局より説明

山岡中学校周辺の土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)について、事務局から報告がありました。

### (内容)

- ・レッドゾーンとは土砂災害防止法に基づき、高さ5m以上、かつ、角度30度以上の法面について指定される区域のことです。
- ・山岡中学校の周辺には4か所のレッドゾーンがあり、うち3つは、法面が崩壊した際、山岡中学校の敷地に土砂が流入する可能性があります。
- ・これらのレッドゾーンについて、今後、防災工事を実施してまいります。

### (理事の質問)

Q:土砂災害特別警戒区域があることを市はいつ把握したか。

A:教育委員会としては今年の5月頃に知りました。

Q:対策工事を実施すれば問題なくなるんですか。

A:対策工事を実施し、高さ5m未満、または、30度未満の法面となれば、レッドゾーンは解除されます。